

市長の伊賀じまん



一上野天神祭の鬼行列 一

上野天神祭といえば、皆さんにとってもなじみ深い祭りではないでしょうか。ダンジリ行事が国の重要無形民俗文化財に指定されているこの上野天神祭、私は大変ぜいたくな祭りだと思っています。

その理由として、名称が大阪の夏祭りと同じであること。楼車を薙刀鉾や月鉾、葵鉾と呼び、お囃子が京都の祇園祭の流れをくんでいること。鬼行列は大和(奈良)に縁があることがあげられます。この行列は、修験道の開祖といわれる役行者が大峰山(奈良)に向かう様子を再現していると言われていました。最近の研究では、醍醐寺三宝院(京都)の門跡(住職)が大峰山に向かう様子を模したものだとの考えも示されています。このように上野天神祭は、大阪・京都・奈良という近辺の有名な祭りや行列の要素を取り入れたお祭りだといえます。

ところで、鬼行列といえば、子どもの頃はとても「面倒な存在」でした。中でもひよろつき鬼は、通り沿いで見物している子どもの顔を覗き込んで泣かせるというのが恒例です。小さな子どもにとっては厄日と言えるかもしれません。ひよろつき鬼が楼車巡行の先を

▶上野天神祭のひよろつき鬼の様子

右へ左へひよろつきながら歩くのは、人払いの役割を担っているようです。市内で同様の例として、勝手神社のかんこ踊りでシャゴマ(籠馬)が走りまわり神事踊が通る道を作っているというものがあります。

子どもたちにとっては怖い鬼たちも、観光にいられた方々にとってはユニークな行列として絢爛豪華な楼車とともに大変好評です。また、鬼行列に使用する供奉面は、桃山から江戸時代にかけて作られた大変貴重な能面で、このうち24面は県の文化財に指定されています。現在は保存のために本面を使うことがなくなってきているのは、少し残念なことです。

上野天神祭を維持していくことは、担い手である各町の努力だけでは難しい時代になってきています。まつり町以外の市民の皆さんや市外から来られる皆さんと一緒に守っていく、そうした新しい形を模索する必要があります。郷土の誇りを守り続けるためには、さまざまな工夫を凝らすことが大切なのではないでしょうか。(伊賀市長 岡本 栄)



防災ねっと

非常食のすすめ

大きな災害が発生すると、電気・ガス・水道が止まり、台所で料理ができない状況が考えられます。

食糧支援が始まるまでの間(通常3~5日間)に口にする飲料水や簡単に食べられる食料を、各家庭で備蓄しておくことが必要です。

今回は、非常食について考えてみましょう。

◆次のような非常食を準備しましょう

《飲料水》 ペットボトルに入っている水

汗や尿として体から出て行く水分を補い、体のバランスを整えるために成人が1日に必要な水分量は「3ℓ」です。普段なら、みそ汁や野菜などの食べ物からも水分をとっていますが、災害時には調理した物や野菜を食べることが難しく、食べ物から水分をとりにくくなります。



《空腹を満たす食料》 レトルトパックのおかず、ビスケット、クッキーなど

普段食べている米やパンなどの主食の代わりとなるものです。



《心を満たす食料》 おかず・果物の缶詰、お菓子、コーヒー、ジュースなど

災害は、不安やストレスをもたらします。食べ慣れた物や甘い物はストレスをやわらげ、また、果物などからは水分や食物繊維、ビタミンなどが補給できます。

◆不足分を補充するという考え方を取り入れましょう

乾燥米やカンパンなどの一般的に非常食と言われるようなものを特別に用意するのではなく、普段から食べているようなもので、封を開ければすぐ食べられるものを買置き、期限が切れる前に食べ、不足分を新たに補充(ローリングストック)すれば、無理なく備蓄ができます。

◆家族のために家庭で備えることが大切です

高齢者や介護が必要な人、アレルギーのある人、乳幼児などは、その人にあったものを備蓄しておく必要があります。

いざという時のために、「家庭の事情に合ったものを、家庭で用意しておくこと」が大切です。

【問い合わせ】

総合危機管理課 ☎ 22-9640 FAX 24-0444



介護相談員だより



ある相談員のつぶやき

介護相談員の仕事は、施設利用者の声や表情からの訴えに耳を傾け、施設や行政への橋渡しをすることです。施設側の努力のおかげで、利用者の多くは現在の環境に満足し生活されていますが、やはり個人の悩みは十人十色です。「食事の味が薄い」「入れ歯がゆるくなった」などは話しやすい相談内容ですが、施設に関することはなかなか本音を聞くことができません。それでも、根気よく利用者との対話を重ねています。

あるとき、施設の利用者から「ここでは何もすることがない」という悩みを伺い、何か体を動かす活動を取り入れてみてはどうかと職員に提案しました。その結果、その施設では体操などの活動を行うようになり、利用者の皆さんも楽しみにしているそうです。

このように意見が受け入れられ、改善されたときは相談員冥利に尽きます。これからも人間の尊厳を守りたいという思いを持って活動を続けていきたいと思えます。

【問い合わせ】

介護高齢福祉課 ☎ 26-3939 FAX 26-3950

伊賀線だより



伊賀線を支える伊賀鉄道友の会

伊賀鉄道を応援したい人なら誰でも会員になれるサポーター組織「伊賀鉄道友の会」は、伊賀線を盛り上げる活動をしています。毎年恒例となった伊賀線まつりの開催や、花火大会の開催に合わせた「花火鑑賞列車」、中秋の名月を愛でる「お月見列車」、車内でスイーツが楽しめる「甘いもんとれいん」などのイベント列車は、定員を超える申し込みがあるなど大人気です。

また、今年は伊賀線の開業記念日である8月8日に開業99周年イベントを開催し、多くの皆さんに来ていただきました。伊賀鉄道がこれからも地域の鉄道として走り続けるために、その支えとなって活動する伊賀鉄道友の会とともに伊賀線をさらに盛り上げていけるよう、市民の皆さんのご協力をお願いします。

【問い合わせ】 総合政策課

☎ 22-9663 FAX 22-9672

伊賀鉄道(株)総務企画課

☎ 21-0863



▲伊賀線まつりの軌道自転車体験の様子。

明日に向かって ～差別をなくしていくために～

ポイ捨てという行為 —建設2課—

■このコラムは毎回いろいろなテーマで人権についてお話しています。

近頃、地域や会社の取り組みとして、道路上に落ちているごみを拾っていただいている場面をよく見かけます。公共の場所へのごみの投棄は「伊賀市ごみポイ捨て防止条例」で禁止されているにも関わらず、空き缶やたばこの吸い殻をはじめ、ごみのポイ捨てがなかなかなくなりません。

道路にごみが捨てられることによって、どのような不都合が起きるのでしょうか。まず考えられるのは、交通事故を誘発する可能性があることです。たとえビニール袋であっても、運転者は「道路上の障害物」と捉えて避けようとしたり、気をとられて自転車や歩行者の発見が遅れてしまうかもしれません。また、ごみが側溝に入った場合、土砂がたまり、水があふれる原因にもなります。景観的にも衛生的にも好ましい状況ではなく、誰かがごみを取り除かない限りこの問題は解消されません。

「少しだけなら」「ほかの人もしているから」と

いう気持ちで何気なくしているポイ捨てという行為が、環境やほかの人に大きな被害を与えることもあります。この構造は、あらゆる差別や人権侵害の構造と似ていると思います。

人権侵害の加害者または傍観者には、「みんながしている」「自分がやったとはわからない」「やったことでどんな影響があるか深く考えない」という共通した意識があり、相手の立場で考えたり行動できるように努めるという姿勢が見えません。差別解消に向けて真剣に取り組む人が増えつつある一方で、心ない言葉を発してしまう人もいます。

今回は、道路に捨てられたごみを例として話しましたが、マナーやルールを守り、人権や環境に配慮した行動をすることは、自分自身を含めた全ての人が住みやすく快適なまちをつくることにつながるのではないのでしょうか。身の回りのさまざまなことを、一度「人権の視点」に立って考えてみましょう。

■ご意見などは人権政策・男女共同参画課 ☎ 47-1286 FAX 47-1288 ✉ jinken-danjo@city.iga.lg.jp へ